

ま な び や

特別展 探究の宝庫「すごろくの世界」

あそびはまなび

子どもたちにとって「遊びや日々の生活の全て」が学びです！

「遊び」や「生活」は子どもたちにとって探究の宝庫！



子供にとって遊びや日々の生活の全てが学びです。「遊び」や「生活」は子供にとって探究の宝庫。その中で、発見すること、体を動かすこと、創造すること、困難を乗り越えること、人と関わること等を繰り返し経験することで、生涯にわたって主体的に学び続けることにつながります。

▼少年歴史地理双六

1910(明治43)年

(東京学芸大学附属図書館蔵) このすごろくは雑誌『少年世界』の1910(明治43)年新年号の付録です。『少年世界』は日清戦争の戦勝機運が高まる1895(明治28)年1月、博文館より創刊された少年向け雑誌です。

発案者「小波」は児童文学者巖谷小波(1870～1933)のことで、『少年世界』主筆を務めました。今でも親しまれている『桃太郎』などの多くの民話を子ども向けに書きなおし、広めた人物でもあります。子ども向けすごろくにも多く関わっています。

すごろくの中身を見てみると、ふり出しは「東京」で時計回りに進んでいきます。まずは太平洋側を通って中央の「宮城(皇居)」が上がりとなつていきます。各地のマスに

は、歴史上の人物やゆかりの寺社、その地で起こった出来事などが描かれています。当時日本の領土であった「台湾」や「樺太」(正確には南樺太)、保護下にあった朝鮮(「平壤

福井は「藤島神社・新田義貞」(下から2段目右から2コマ目)



※詳細はHPでご確認下さい

③童謡双六で歌おう！(随時受付) ③のみ電話申込み必要 0776(58)2250

②懐かしい教科書作品上映会 毎週土曜・祝10:00 14:00

①巨大すごろくで遊ぼう！ 毎週日曜日9:00 15:00

▼期間中のイベント情報

特別展「すごろくの世界」

3月24日

(ピョンヤン)」のマスもありました。

「福井」のマスには、新田義貞と藤島神社が描かれています。義貞のほかにも、「神戸」のマスには楠木正成と湊川神社が、「船上山」(鳥取県)のマスには名和長年が描かれており、南北朝の動乱において南朝方に属した武士が多く取り上げられていることがわかります。

ちなみに当時の国定教科書『尋常小学日本歴史』(1909(明治42)年発行)では南北朝並立の立場をとっていましたが、1911(明治44)年に南朝を正統とする事とし、教科書が改訂されて以降、その考え方が第二次大戦敗戦時まで支配的となりました。